

# オレンジ通信 Vol.13

さ さ き  
佐々木まゆみ市議会活動レポート

2016年 2月発行

発行元／仙台市議会公明党市議団 仙台市議会議員佐々木まゆみ  
仙台市宮城野区幸町2-21-11 TEL022-707-7462 メールアドレス sasaki@sendai-komei.jp



## 震災復興5年目。 心の復興はこれからが本番！ 皆さまのために誠心誠意働いてまいります。



心のケアに関してはまさにこれからが本番と言っても過言では有りません。私も「本当の復興はこれから」と、身の引き締まる思いです。

本年は申年(さるどし)です。申は「のびる」、「去る」の意味があると言われます。皆様の暮らしがより良い方向へ「のびる」よう、そして不安がまとめて「去る」年になるよう心から願ってやみません。

そのためにも、今後も尚一層、みなさまお一人お一人のために誠心誠意、働いてまいりますので、宜しくお願い申し上げます。

仙台市議会議員  
佐々木まゆみ

朝晩の冷え込みが、いよいよ身に染みる厳冬の2月です。そんな中でも街の所々で寒椿の鮮やかな紅色が目に入ります。暦の上では、間もなく立春。日々の寒さの中にも春の足音が少しずつ聞こえてきます。

あの東日本大震災から間もなく丸5年の歳月を迎えます。今年度は、仙台市として進めてきた震災復興5ヵ年計画の最終年度となります。

この節目の年に、復興公営住宅が計画通り全て完成する予定です。ハード面に限って見れば関係者の努力が実り着実に成果が現れていると言えます。しかし、ソフト面では課題はまだまだ山積しています。



本年より毎週水曜日の朝、定期的に街頭にてご挨拶をさせて頂いております。

### さ さ き 佐々木まゆみのプロフィール

昭和39年7月仙台市生まれ。  
平成23年仙台市議会議員初当選(宮城野選挙区)。現在2期目。  
【仙台市議会】経済環境委員会。防災・減災推進調査特別委員会。  
【公明党】宮城野西支部長。

## 平成27年度 第4回 定例会 一般質問

平成27年12月14日



# 仙台の輝く未来のために、 切れ目のない子育て支援、障がい児保育支援の拡充を!

## 日本版ネウボラについて

### 【佐々木まゆみ議員】

平成27年5月に総務省が発表した15歳未満の子どもの推計人口は、前年比16万人減の1617万人、34年連続減少で1950年以降最小を更新し、一層の少子化が進行していることが明らかになった。

さらに、今後人口減少社会が急速に進む見通しの中で、少子化対策、とりわけ、安心して子どもを生育する環境整備は、最優先で取り組まなければならない重要課題となっている。

その対策の一つとして、フィンランドの先進事例を参考にした、妊娠・出産・就学前まで総合的に切れ目なく子育てを支援する仕組みで、フィンランド語で「アドバイスをする場所」という意味の「日本版ネウボラ」がある。

平成26年度には、三重県名張市、埼玉県和光市、千葉県浦安市。政令市でも、横浜市・京都市・静岡市・神戸市で取り組みが始まった。

仙台市では「ネウボラ事業」をどう評価されるか、ぜひ「仙台版ネウボラ」の推進を望むが所見を伺う。

### 【奥山市長】

ご指摘の「ネウボラ事業」は、我が国においてもワンストップの相談窓口において切れ目ない支援を実施する「子育て世代包括支援センター」事業の全国展開の方向性が打ち出されたところである。

現在、様々な自治体において特色ある施策が実施

されているところであり、こうした取り組みは、現下の少子化対策としても望ましいものと評価をしている。更に人口減少への対策としても一定の効果があるものと認識をしている。

本市でもかねてより、区役所・総合支所において、様々なニーズにワンストップで対応する総合的な相談支援を実施しており、例えば妊娠期には、母子健康手帳交付の際に、必ず保健師等の専門職が面接を行い、その後の必要な支援につなげているほか、出産後は新生児全戸訪問等を通じ、育児に悩む保護者の不安解消に努めるなど、切れ目のない支援に取り組んできたところである。

今後とも、相談支援体制のさらなる充実に向け、このような取り組みを進めるとともに、国の新たな事業の枠組みも有効に活用しながら、子育てしやすいまち仙台的構築を目指してまいりたい。

## 重い障がい児の保育について

### 【佐々木まゆみ議員】

平成21年度「全国家庭児童調査」によると、障がい児のお子さんを持つお母さんの就労率は約5%で、健常児のお母さんの34%に比べると約7分の1と低く、子どもを預けられないため、働くことのできない障がい児の母親が潜在的に存在する。また、両親が健在であっても世帯主だけの収入に頼るシングルインカムとなることが多いため、医療費や療育費など、子育て

にかかる費用負担も大きく、収入面でも厳しい状況に置かれている。

「医療的ケア」が必要な重い障がい児の多くは数カ月から1年程で退院し在宅医療に移行となる。

しかし、子ども向け訪問介護や障がい児保育、保護者のレスパイトケアなど地域生活インフラは圧倒的に不足している。本市における重い障がい児の保育の現状はどうか。

### 【奥山市長】

現在、仙台市内においては、医療的ケアが必要な障がい児の保育を行うため、公立保育所2か所において、看護師を1名ずつ配置し、経管栄養や導尿といった医療的ケアを提供しながら保育を行っており、各保育所に2人、計4人の児童が入所されている。

### 【佐々木まゆみ議員】

先日、日本初・児童発達支援を活用した障がい児専門保育園「障がい児保育園ヘレン」を視察した。

「障がいの有無に関わらず全ての子どもが保育を受け保護者が働くことを選択できる社会」の実現を目指し平成26年9月に開園した。

通常の保育園同様に朝から夕方まで母子分離の保育を実施し、常勤看護師や研修を受けた職員が常駐し痰吸引、経管栄養などの医療的ケアに対応し、遊びを中心に楽しみながら発達を促す「ムーブメント療育」を実施している。

本市としても専門スタッフ並びに医療的ケアの人材確保に取り組み、重い障がい児と就労を希望する保護者を支える施策を早期に取り組みむべきと考えるがどうか。

### 【奥山市長】

本市においては、障害児や保護者への支援スキルを高めるため、保育士に対する研修を実施するとともに、医療的ケアが必要な障害児について、看護師を配置して、その受け入れにも努めてきたところである。

医療的ケアが必要な重い障害児の保育については、看護師等の人材確保をはじめ、療育機関や小学校との連携、受け入れ施設の状況等、多くの課題があることから、今後、支援のあり方について関係機関と協議してまいりたい。

## 命を守る教育について

### 【佐々木まゆみ議員】

「こども笑顔のラインプロジェクト」とは、動物とふれあう活動を通じて、命を大切にする心や思いやりの心を育てることを目的に、

1「獣医の仕事について」獣医から仕事内容と動物と人間の寿命の違いを学び命の大切さを学ぶ。

2「生きているということについて」犬の心臓の音を聞き人との違いや同じ命であることを学ぶ。

3「命と思いやる心について」授業を振り返りながら考えるものである。

仙台市でも平成27年4校で実施し、年度内に10校実施する予定とのことだが、大変に素晴らしい取り組みであると考えている。

その結果の総括について、また今後の取り組みについてご所見を伺う。

### 【奥山市長】

本プロジェクトは、文部科学省の後援を受けた東京都の一般社団法人の協力により、動物と触れ合う活動を通して、命を大切にする心を育てることを目的とし、今年度、小学校10校で実施するものである。

学校からは、児童が実際に犬を抱いて心臓の音を聞いたり、体の温かさを感じたりするなど、意欲的に学び、生き物へ親しみをもつことができたとの報告が寄せられている。

本事業は、児童が身近な動物を通して命の大切さを学ぶ有意義な機会となったものと考えている。

このようなことから、本プロジェクトの継続については、ご協力いただいている団体や関係者の皆様と一層の連携を図り、実施の枠組みについて今後協議しながら継続の可能性について検討を行ってまいりたい。

その他、マイナンバー制度に関する「問い合わせ相談電話の通話無料化」「通知カードに係る視覚障害者の方への配慮」「学校トイレの改修(洋式化)」等訴えた。

佐々木まゆみ 日々の活動



障がい児保育園「ヘレン」を視察(12月)



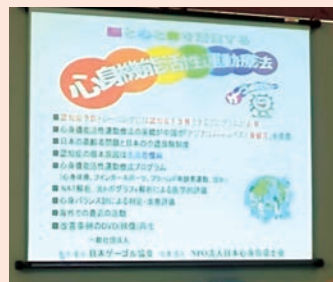
地下鉄東西線開業  
記念式典に参加(12月)



地下鉄東西線が開通。  
着々と整備が進んでいる荒井駅前にて(12月)



東京都品川区・サービス付き高齢者向け  
住宅を訪問(12月)



「脳が動けば心が動く  
心が動けば身体が動く」  
認知症 心身機能活性運動  
療法講習会に参加(1月)



仙台市卸売市場  
業務開始式、初せりに  
参加(1月)



地域の新年祝賀会に  
出席(1月)



仙台市消防出初式(1月)



成人式に参加(1月)